

サツマイモ^{*1} (野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	黒斑病	斑点病	つる割病	基腐病
I C ボルドー66DFL	M1		-	-				◎
クプロシールド水	M1		-	-				◎
Z ボルドー水	M1		-	-		◎		◎
ドイツボルドーA水	M1		-	-		◎		
ジーファイン水	NC・M1		1	-				◎
トップジンM水㊟	1		*a	1	◎			
			*c	1				◎
ベンレート水㊿	1		*a	1	◎		◎	◎
			*b				◎	
			7	3		◎		
アミスター20FL	11		14	3				◎
フリントFL25	11		*a	1				◎
フロンサイド粉	29		*a	1				◎
フロンサイドSC	29		*a	1				◎
			30	2				◎
トリフミン水	3		*a	1			◎	◎
			1	2				◎
ベンレートT水20㊿	1・M3		*a	1	◎		◎	◎

㊟:チオファネートメチル含有剤 ㊿:ベノミル含有剤 ㊟を使用した場合には同じ作での㊿は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く、詳細はP. 857参照）。*1:サツマイモ…カンショ（シモンいもを含む）

*a:植付前 *b:挿苗時 *c:貯蔵前～伏せ込み前

※植付前に使用できる農薬は、商品によって使用方法が異なるため、必ずラベル等を確認してから使用する。

サツマイモ^{*1}(野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒	使用時期(回数)	アブラムシ	コナジラミ	ネギアザミウマ	イモムシ	ヨトビ	シロイチモジ	ハスモンヨトウ	ネキリ	ナガジロシタ	エビガハモグリ	ハルガオハモグリ	ハガハ	コガネムシ	ゾウムシ	ヨツモンカメノコ	ケムシ	ハダニ	センチュウ
コロマイト乳	6		1 2																		◎
オリオン水40	1A	劇	1 5				◎		◎		◎										
スミチオン乳	1B		7 5	◎		◎												◎			
ダイアジノン粒5	1B		30 3								◎						幼		◎		
ダイアジノンSLゾル	1B		*c 1														幼				
ガードホープ液	1B	劇	*c 1																		ネ
ネマキック粒	1B		*c 1																		ネ
ネマトリンエース粒	1B		*n 1																		ネ
			*c 1																		セ
プリンスバイト粒	2B		*c 1												◎		◎	イ			
			*a												◎		◎				
アグロスリン水	3A	劇	7 5	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
			7 5	茎	茎	茎	茎	茎	茎	茎	茎	茎	茎	茎	茎						
アディオ乳	3A		7 5			◎															
ガードバイトA粒	3A		*Q 5							◎											
トレボン乳	3A		7 3	◎					◎		◎										
フォース粒	3A	劇	*c 1											◎		幼					
アクタラ粒5	4A		*c 1													幼					
			*k	◎																	
アドマイヤー1粒	4A		*c 1													◎					
アルバリン顆粒	4A		3 1	◎	◎																
スタークル顆粒	4A		7 2	◎																	
ダントツ溶	4A		*k 1	◎																	
			*c													◎	ト				
ピーラムプラス粒	4A		*c 1													◎					セ
ベストガード溶	4A		*k 3	◎	◎																
モスピラン顆粒	4A	劇	1 3	◎														◎			
ネマトリンパワーD粒	4A・1B		*c 1													◎					ネ
ディアナSC	5		1 2						◎		◎		◎								
アニキ乳	6		1 3						◎		◎										
アフーム乳	6		7 3					◎	◎												
ネマクリーンFL	7		*c 1																		ネ

サツマイモ^{*1}(野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒	使用時期(回数)	使用回数	アブラムシ	コナジラミ	ネギアザミウマ	イモムシ	ヨトウ	シロイチモ	ハスモン	ネキリ	ナカジロ	エビガ	ヒルガ	ハリガ	コガ	ゾウ	ヨツ	ケ	セン
コルト顆水	9B		1	3	◎◎																
ニッソラン水	10A		7	2																	◎
コテツFL	13	劇	1	2					◎◎										◎		◎
アタブロン乳	15		7	5					◎												
カスケード乳	15		7	2					◎	◎											
ノーモルト乳	15		7	2					◎	◎								サ			
マッチ乳	15		14	2					◎	◎											
マトリックFL	18		7	3					◎	◎											
ロムダンFL	18		7	3					◎	◎											
マイトコーネFL	20D		3	1																	◎
サンマイトFL	21A	劇	1	2	◎																◎
トルネードエースDF	22A		7	2					◎	◎											
ファイントリムDF	22A		7	2					◎	◎											
アクセルFL	22B		1	3					◎	◎									◎		
ダニサラバFL	25A		1	2																	◎
フェニックス顆水	28		1	2					◎	◎	◎										
ブレバソンFL5	28		1	3					◎	◎								ア			
ベネビアOD	28		7	3					◎	◎	◎							イ	◎		
グレーシア乳	30		7	2	◎				◎	◎	◎							イ		◎	
プロフレアSC	30		1	3			◎		◎	◎	◎	◎	◎					◎			
ブレオFL	UN		7	2					◎	◎	◎										
ビーラム粒	-		*c	1																	セ
粘着くん液	-		1	-																	◎
ハクサップ水	1B・3A	劇	7	5			◎		◎	◎	◎										
アフームエクセラ顆水	6・15		14	2					◎			◎									
ミネクトエクストラSC	28・15		14	2					◎	◎											

*1:サツマイモ…カンショ(シモンいもを含む)

*a:植付時 *c:植付前 *f:成虫発生初期 *j:植付前(挿苗前) *k:育苗期

*n:苗床植付前 *p:5~6回 *Q:生育初期

ア:アリモドキゾウムシ イ:アリモドキゾウムシ、イモゾウムシ

サ:ハイイロサビヒョウタンゾウムシ セ:ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ

ト:トビイロヒョウタンゾウムシ ネ:ネコブセンチュウ

幼:幼虫 茎:かんしょ(茎葉)

サツマイモ(野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発消長		1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病	普通												
	黒斑病												
害	つる割病												
	イモコガ												
虫	コガネムシ類 幼虫												
	成虫												
害	ナカジロシタバ												

作 型 ー；栽培期 ー；収穫期
 病害虫発消長 ー；発生期 ー；発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黒斑病	伏込前	1. 健全な種いもを使用する。 2. 種いもを47～48℃の湯に40分間浸漬して、ただちに伏せ込む。	発病種いも及び土中に残った被害いもが伝染源となる。 一般にハリガネムシの被害を受けやすい品種が弱いといわれている。 ㊦:チオファネートメチル含有剤 ㊧:ベノミル含有剤 ㊦を使用した場合には同じ作での㊧は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理及び塗布処理を除く、詳細はp. 857参照)。
	育苗前	・ 苗床の床土は無病地の心土にする。	
	定植前	1. 苗をとるときは、かき苗をやめ、基部6cm位残すように切りとり、苗の基部1/3(約10cm)を47～48℃の湯に15分間浸漬する。 2. 次の薬剤のいずれかを処理する。 (種いもまたは苗基部浸漬処理) トップジンM水和剤㊦ 200～500倍液 20～30分間 (さし苗基部浸漬処理) ベンレートT水和剤20㊧ 20倍液 1分間 200倍液 30分間 (苗基部浸漬処理) ベンレート水和剤㊧ 500～1000倍液 20～30分間	
	収穫期	・ 掘り採りの際、発病のあった畑からは採種しない。	
紫紋羽病	定植前	・ 本畑は土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。	

サ
ツ
マ
イ
モ

- 368 -

サツマイモ (野菜類、イモ類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ナカジロシタバ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 トレボン乳剤 1000倍 ノーマルト乳剤 1000倍	8～9月に発生が多い。
イモコガ (イモキバガ)	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオン乳剤 3000倍 スミチオン乳剤 1000倍	乾燥のときに発生が多い。
コガネムシ類幼虫	植付前	・次の薬剤を処理する。 フォース粒剤 全面土壌混和又は 作条土壌混和 9kg/10a	未熟堆肥の多用は発生を助長する。
	生育期 (7月下旬～8月中旬)	・次の薬剤を作条に散布して軽く覆土する。 ダイアジノン粒剤5 4～6kg/10a	
ネコブセンチュウ	苗床植付前	・次の薬剤を全面に施用して土壌混和する。 ネマトリンエース粒剤 10～30kg/10a	
	植付前	1. 土壌消毒をする(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤のいずれかを施用して土壌混和する。 ネマキック粒剤 (全面) 15～50kg/10a ネマトリンエース粒剤 (全面) 10～30kg/10a	